

科目名	音楽 I		学年	類型・コース	単位数
			1 学年	全コース (選択)	2 単位
学習の目標	音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。				
使用教材	教科書：ON! (音楽之友社) 副教材：				
評価	評価法	定期考査、課題プリント、研究発表、実技テスト (歌唱、聴き取り、ピアノ演奏) レポート、ノート整理、授業態度			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	それぞれの時代の音楽家を通し、その歴史的背景から生涯と作品について考える。音楽の基礎を学び、その構造や仕組みを理解する。	
		b	思考・判断・表現	授業で学んだ知識を基に更に研究を深め発表する。身につけた技能を歌唱、器楽を通して表現・発表する。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	授業で学んだ知識を基に、更に深く研究しノートにまとめる。題材ごとの課題プリントにより考察を深める。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価 (A, B, C の3段階) および評点 (1~10 の10段階) にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価 (A, B, C の3段階) および評定 (1~5 の5段階) にまとめます。					

期	月	時数	学習項目・題材	学習内容	評価方法		
					a	b	c
1 学期	4	6	1.歌唱 (校歌、教科書)	1.歌詞の意味や構造を学習し、基礎的な歌唱の技能を身に付ける。	小テスト	研究発表  レポート  課題	ノート ・整理 ・自主学習 ピアノ実技 ・進捗表 授業態度 行動観察
	5	8	2.鑑賞 音楽史より バロック時代	2.バロック時代の音楽家の作品を取り上げ、その特徴や時代背景を学習し、その後 CD や生演奏により鑑賞する。	実技 ・リズム打ち 聴き取り ・ピアノ演奏 (キーボード)		
	6	8	3.器楽 (ピアノ、 キーボード)	3.バロック時代に盛んだった通奏低音をキーボードを使用して体験する。	・歌唱テスト		
	7	4	4.楽典 (音楽の基礎知識)	4.通奏低音の基になるコードネームを理解し、キーボード演奏に繋げる。	期末考査		
2 学期	9	8	1.歌唱 (教科書)	1.外国の曲に親しむ。	小テスト	研究発表  レポート  課題	ノート ・整理 ・自主学習 ピアノ実技 ・進捗表 授業態度 行動観察
	10	8	2.鑑賞 音楽史より古典派	英語・ドイツ語・イタリア語の曲を歌う	実技 ・メロディー 聴き取り ・ピアノ演奏 (キーボード)		
	11	8	3.器楽 (ピアノ、 キーボード)	2.古典派の音楽家の作品を取り上げ、その特徴や時代背景を学習し、その後 CD や生演奏により鑑賞する。	・歌唱テスト		
	12	4	4.楽典 (記譜法)	また併せて演奏形態についても指導 3.コードを応用して小品を弾く 4.楽譜の構造を分析する。	期末考査		
3 学期	1	6	1.歌唱 (教科書)	1.日本歌曲に親しむ。	小テスト	研究発表  レポート  課題	ノート ・整理 ・自主学習 ピアノ実技 ・進捗表 授業態度 行動観察
	2	8	2.鑑賞 音楽史よりロマン	歌詞の内容に適した表現を工夫する。	実技 ・ハーモニー 聴き取り ・ピアノ演奏 (キーボード)		
	3	2	3.器楽 (ピアノ、 キーボード) 創作 (編曲)	2.ロマン派の音楽家の作品を取り上げ、その特徴や時代背景を学習し、その後 CD や生演奏により鑑賞する。 3.課題を自由に編曲し、曲を仕上げる。 発表会形式で一人一人演奏する。	・歌唱テスト 学年末考査		

担当者からのメッセージ (学習方法など)

R2~R3 はコロナ禍により、合唱やリコーダー等が全くできませんでした。歌唱やリコーダーの得意な生徒にとっては評価対象に加えることができなかったため、評価に多少の偏りがあることを理解していただきたい。(実技はキーボードが中心)。評価は実技、研究発表、レポート、定期考査、授業態度など幅広い活動を通して行います。

科目名	美術 I		学年	類型・コース	単位数
			1		2 単位
学習の目標	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方、考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質、能力を育成することを目指す。				
使用教材	教科書：高校生の美術 I（日本文教出版） 副教材：				
評価	評価法	授業態度、提出物の有無、意欲、作品の内容の総合評価による			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	
		b	思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

期	月	時数	学習項目・題材	学習内容	評価方法		
					a	b	c
1 学期	4	6	色彩基礎	○三原色と白から様々な色を作ってみる ・色の三属性を理解する。	作品	作品 プリント	プリント
	5	8	色彩構成	○大中小の形を元に色彩構成をする。 ・形、色を工夫しテーマにそった表現を考える。	作品	作品	作品
	6	8		○鉛筆デッサン基礎 ・グラデーション、鉛筆の特性、基本的な形の描き方。	プリント 作品	プリント 作品	プリント 作品
7	4	デッサン					
2 学期	9	8	絵画	○私の見付けた風景	作品	作品	作品
	10	8	鑑賞	○鑑賞 様々な作家の表現を DVD、画集を使用して鑑賞する。	プリント	プリント	プリント
	11	8	デザイン	○スマホカバー作り			
	12	4		○製品デザイン ・使う人や場面、機能や用途、美しさなどを考えて暮らしの中にあるものをデザインする。	プリント	スピーチ (プレゼン)	プリント
3 学期	1	6	彫刻	○角材での木彫り ・道具の安全な使用法を身につける。	作品 プリント	作品 プリント	作品 プリント
	2	8	鑑賞	・自由な発想で立体的な物の見方を養う。			
	3	2		・仕上がった作品を鑑賞する。			

担当者からのメッセージ（学習方法など）

美術は上手に描いたり作ることも大切ですが、それ以上に、何かを作る過程で自分自身でよく考え感じる事が大切です。色々な物に触れ、理解を深めていって下さい。

科目名	書道 I		学年	類型・コース	単位数
			1 学年		2 単位
学習の目標	書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。				
使用教材	教科書：東京書籍「書道 I」 副教材：				
評価	評価法	①各時間、提出を指示した課題の質・練習量。 ②学習活動への参加姿勢・状況〔出席状況・学習態度（挨拶や片付けなどの基本的な礼儀作法）・意見発表など〕 ③実技テスト、筆記小テスト。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	書の表現方法や形式・多様性などについて幅広く理解しているとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき効果的に表現するための基礎的な技能を身につけている。	
		b	思考・判断・表現	書の良さや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えることができる。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通じて心豊かな生活や社会を創造していく態度を身につけている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

期	月	時数	学習項目・題材	学習内容	評価方法		
					a	b	c
1	4	6	刺繍エーション 硬筆基本	・小・中学校の書写で学習したことの確認としてひらがな・漢字の基本配列を学ぶ。	実技 テスト	提出 課題	授業 態度
	5	8	硬筆	・つけペン・インクを使用し、本格的な硬筆作品を作る。			
	6	8	書写から書道へ 漢字の成立と変遷	・書写と書道の違いを理解する。書体を学び、書道辞典を使用し自分の氏名を調べながら親しみを持ちつつ、より理解を深める。			
	7	4	漢字の書 毛筆楷書の特徴（基礎）	・姿勢・執筆法といった基本、楷書の用筆・運筆・結構や字形の取り方について学習・理解し練習する。			
2	9	8	漢字の書 毛筆 楷書 臨書 書風の理解	・楷書の古典を臨書する意義について理解する。臨書の意味や方法を学ぶ。作品ごとに異なる書風を比較しながら分析、発表する。	実技 テスト	提出 課題	授業 態度
	10	8	楷書・臨書「九成宮禮泉銘」 半切2字書き	・「九成宮禮泉銘」をピックアップして鑑賞、その美について理解する。「人物と時代」など、書道史を学び理解を深める。			

2	1 1	8	楷書・臨書「九成宮禮泉銘」 半切 14 字書き き合作	・基本の書き方を練習後、臨書・半紙と半切りでタイプの違う作品をつくり、構成力と基礎的な技能を身につけていく。	実技 テスト	提出 課題	授業 態度
	1 2	4	楷書・臨書 「牛橛造像記」 半切 1/2 半切 3~6 字書き	・同じ楷書でも「九成宮禮泉銘」とは書風が大きく異なる「牛橛造像記」をピックアップし、書風の違いや執筆法の違いを学び、技能を身につける。			
3	1	6	行書・臨書 「蘭亭序」半切 2 字書き 半切 14 字書き	・楷書と行書の違いを分析、行書の特徴を理解した後、「蘭亭序」を「人物と時代」なども活用して書道史を学び臨書する。	実技 テスト	提出 課題	授業 態度
	2	8	仮名の書 「いろは歌」 「高野切第三種」など	・鑑賞では日本の書の美について理解する。仮名の成り立ちを学び、平仮名の単体・連続といった基礎的な技能を中心に練習し身につけていく。			
	3	2	漢字仮名交じりの書 創作 カンダー作品	・古典の活用、構成を工夫することで様々な表現ができることを理解し、表現の工夫で学んだ技法を活かして意図に基づいて創作し、相互評価をする。			

担当者からのメッセージ (学習方法など)

- \*小・中学校での書写でしか経験がないという初心者でも大丈夫です。ひらがなをうまく書くコツから始め、筆の持ち方・墨の付け方・姿勢といった基本から学びます。
- \*実技がメインとなりますが、人物や時代背景などの書道史を学ぶ座学もあります。作品の出来映えだけでなく、積極的に授業に参加することが評価につながります。
- \*書道は「道」を学ぶ場でもあるので、礼儀 (挨拶) や作法 (片付け・姿勢) も重視しています。他者への思いやりも身につけ、生涯に役立ててほしいと思います。
- \*学年末では創作で少しでも自分のイメージに近い作品が描けるようになることを目指し、一緒にコツコツと練習に取り組んでいきましょう。